

No.150



昭和51年12月15日創刊

宮城県登米農業改良普及センター
～人と技術が織りなす活力ある登米農業～

〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字西佐沼150-5
TEL (代)0220-22-6111 FAX 0220-22-7522
E-mail: tmnokai@pref.miyagi.lg.jp
URL: <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>



いちごの花芽分化検鏡



ドローンによる遮熱剤散布



◎トピックス

- ・重点活動の紹介
- ・みやぎ農業未来塾について
- ・新たな農業士の紹介
- ・登米の元気ファーマー
- ・みどり認定について
- ・土壌分析について

「ミヤギシロメ」の生育調査



「ササニシキ」の坪刈り

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます。応援します。農業普及

主な重点活動の紹介

① 地域における新たな担い手の確保・育成、女性農業者の活躍支援

普及センターでは、関係機関と連携し、新たに就農を目指す方から法人化を目指す農業者まで、多様な人材の確保・育成に取り組んでいます。

定期的に行われる登米市就農相談会では、市役所やJA、金融機関などが一堂に会し、新規就農や経営継承、異業種からの参入希望など、さまざまな相談に対応しています。

就農を希望する人には、視察や研修、営農計画の作成など、一人ひとりの希望に応じた、きめ細かな支援を行っています。

また、就農して間もない農業者に対しては、登米市農業マイスター制度を活用した栽培管理技術や資金計画に関する助言など、関係機関と連携し継続的な支援を実施しています。

女性農業者の活動支援では、アグリレディーズネットとめや登米地区農村生活研究グループを対象に研修会を開催し、会員同士が学び合う機会を提供しています。



マイスター制度実施の様子

② 地域計画の実現に向けた支援

「地域計画」は、地域農業の将来像を描き、10年後に「誰が、どこの農地でどんな農業を営むのか」をまとめた計画です。

登米市では、令和7年3月末に旧町単位で策定・公表しました。

地域計画は策定して終わりではなく、計画を進めていく取組みが大切です。このため、県では、毎月、関係機関で定例会を開催し、農地の集積・集約化に向けて情報交換を行っています。

令和7年度には、豊里地区をモデル地区に選定し関係機関と連携しながら、農地集約化に向けた研修会や意見交換会等を開催しました。農業者や関係者から継続的な取組みが求められ、今年度も引き続き実施しています。



研修会と意見交換会の様子

③ 登米地域園芸重点品目の生産振興

普及センターではみやぎ園芸振興戦略プランに掲げる重点振興品目のうち、登米管内では「ばれいしょ」「いちご」「りんご」を対象に、生産振興と安定生産に向け、栽培技術や生産性向上に向けた支援を行っています。

○加工用ばれいしょ生産の中・長期計画達成に向けた支援

「登米ぼてと組合」が令和3年に発足し、加工用ばれいしょの契約栽培が行われるなど、組織的な取組みが図られています。関係機関と連携し、策定された「中・長期計画」の達成と生産体制の構築を支援しています。7月には、中・長期計画に掲げた「新規栽培者の掘り起こし」を目的に、登米ぼてと組合として初めて、JA農機センター販売会を会場に、加工用ばれいしょ紹介ブースを作り、勧誘するなど、新たな活動が始まっています。



加工用ばれいしょ収穫の様子

○いちご若手生産者の技術力向上支援

管内のいちご部会では後継者の育成や新規参入が進み、若手の生産者が増えてきています。JAや県農業・園芸総合研究所と巡回を行い、定期的な栽培指導により技術定着を支援しています。

○りんごのジョイントV字栽培の技術支援

作業の省力化や早期成園化が見込めるジョイントV字樹形の管理技術向上を支援しています。

みやぎ農業未来塾 ～高校生に農業現場を知ってもらおう～を開催しました!

令和8年6月30日(火)に、宮城県登米総合産業高等学校農業科の生徒27人を対象にみやぎ農業未来塾(※)を開催しました。

今回の未来塾は2部構成で実施し、第1部は農業において重要な気象について、仙台管区気象台の職員から講義をいただきました。

第2部は、高校生に職業の一つとして農業を考えてもらうため、新規就農者、若手農業者(4Hクラブ員)、農業法人の代表者を交え、4グループに分かれて就農の経緯や農業の魅力について意見交換を行いました。高校生にとって、気象の専門家や実際に農業者からの話を聞くことができ非常に良い経験になったようでした。

当普及センターでは、今後も新規就農者等を対象に研修会等の開催や個別巡回による支援を実施していきます。



説明をする山内健太郎さん

※みやぎ農業未来塾：青年農業者等の育成を目的とした研修事業

新たな農業士の紹介

相澤 宏(迫町)

迫町の相澤宏さんは、「株式会社もくりファーム」の代表を務め水稻、いちごを栽培しています。水稻では乾田直播やドローン、RTKを活用するなどスマート農業を導入し効率的な営農を実践しています。いちごでは、IPM技術による減農薬栽培に取り組んでいます。また、小学校でのバケツ稲指導、保育所や幼稚園へのいちご園開放など、食育活動も行っています。



庄司 力(南方町)

南方町の庄司力さんは、花き、水稻、野菜の複合経営を家族とともにを行っています。花きにおいては、技術習得を着実にを行い、高品質な花き生産に取り組んでいます。更に、新規部門として果樹(梨)を令和8年より導入し経営拡大に挑戦しています。就農当時から4Hクラブに加入し登米地区の会長、県連の役員を務めるなど、リーダー的な存在として後輩を牽引しています。



登米の元気ファーマー

渡邊 裕子さん(迫町)

渡邊さんは、迫町でぶどう、ブルーベリー、ミニトマト、アスパラガス等、約1haを栽培する認定新規就農者です。もともと別の業種に勤めていましたが、家族と過ごす時間を増やしたいという思いをきっかけに、令和6年4月に就農しました。

現在は、地元スーパーの産直コーナーに農産物を出荷しているほか、ブルーベリー8品種、ミニトマト4品種の摘み取り体験を実施しています。収穫作業に追われる日もありますが、日々の営農を楽しみながら取り組んでいます。

今後については、「自分と同じように子育てを頑張っている家族が、体験を通じて交流できる場所をつくっていききたい」と抱負を語ってくれました。



畜産経営体では県内初となる「みどり認定」を取得

登米地域事務所農業振興部では、環境負荷の低減に取り組む農業者の事業計画を県知事が認定する制度である「みどり認定」の申請を随時受け付けています。

去る令和8年5月13日に米山町の有限会社サトウ養豚が畜産分野では県内初となる認定を取得されました。

代表取締役の佐藤隆さんは、密閉攪拌方式コンポストを導入し、コンポスト内での常時攪拌とエアレーションによって強制的に空気を送り込んで好気性発酵を促すことで、従前のたい肥盤堆積時よりも温室効果ガスの排出を抑制できると説明してくれました。また、たい肥のペレット化設備を同時導入し、有機資源の一層の地域利用促進にも力を入れると意気込みを語ってくれました。

みどり認定を受けることで、設備投資の際の税制優遇や国庫補助事業の採択優遇、農業改良資金の融資を受けることができます。申請は、個人又はグループで受けられますので、お気軽に相談ください。

【問い合わせ先：電話0220-22-3535（地域調整班）】



土壌分析の利用と堆肥の活用について

皆様の農業経営の安定と生産性の向上を支援するため、普及センターでは土壌分析を無料で実施しています。

この分析結果に基づいた施肥設計を行うことで、肥料のムダをなくし、より良い作物の生育環境を目指すことができます。

土壌の採取方法については右の図を参考にしてください。混雑状況によっては返却に3週間以上お時間をいただく場合があります。

ぜひ、次期作の準備にご活用いただき、計画的な営農にお役立てください！

また、堆肥の利用は年々減少傾向にあり、地力の低下が心配されます。地力の低下は農作物の収量や品質の低下にもつながります。

普及センターでは、堆肥の利用促進のためのチラシを作成しました。

管内には7カ所の有機センターがありますが、チラシには各センターの堆肥の特徴や品目別利用の目安を掲載しています。土づくりのため、積極的に堆肥を活用しましょう。

チラシの詳細は普及センターのホームページをご覧ください。



土壌採取の方法

～農作物の収穫後、次期作の肥料散布前（1か月以上前）に土を採取します～

- ① 土は複数地点から同量ずつ採取し、均一に混ぜる

10a以下
5カ所採取

10a以上
採取地点を増やす

※果樹の場合
樹を5本選び、
樹冠下から深さ30cm
の土壌を採取
- ② 採取地点の表土を取り除き、作土15cmから均等に採取する

表層1～2cm
を除去

穴を掘り、斜面から
一定の厚さで採取

上層が多い
- ③ 混和した土を新聞紙などに広げ、陰干しし、よく乾燥させる
- ④ 乾いた土をよく粉砕し、ふるいにかける
- ⑤ 100g程度（ご飯茶碗1杯分）をビニール袋に入れる

およそ100gで十分

×

→

申込方法

- ① ビニール袋に「氏名・ほ場名」を記載
- ② 普及センターへ直接持ち込み
- ③ 「土壌分析依頼書」を記入 ※様式は普及センターにごさいます。

注意点

土壌分析
依頼書

・氏名
・住所
・栽培品目
・面積 等

- 土壌分析診断には、受付から2～3週間お時間をいただきます。
- 1回のお申込みは3点以内を目安にお願いします。点数が多い場合は事前にご相談ください。
- 原則、農業の方が対象です。家庭菜園などの自家栽培用の土壌診断は受付できません。また、肥料や堆肥の分析はできません。